

# 経済・金融 フラッシュ

## 消費者物価(全国 25年2月)ーコア CPI 上昇率は当面3%前後で推移する見通し

経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. コア CPI 上昇率は2ヵ月連続の3%台

総務省が3月21日に公表した消費者物価指数によると、25年2月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI）は前年比3.0%（1月：同3.2%）となり、上昇率は前月から0.2ポイント縮小した。事前の市場予想（QUICK集計：2.9%、当社予想は3.0%）を上回る結果であった。

食料（生鮮食品を除く）の伸びは一段と加速したが、電気・都市ガス代の支援策再開により、エネルギー価格の上昇率が大きく鈍化したことが、コア CPI を押し下げた。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合（コアコア CPI）は前年比2.6%（1月：同2.5%）、総合は前年比3.7%（1月：同4.0%）となった。

消費者物価指数の推移

		全 国			
		総 合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合
24年	1月	2.2	2.0	3.5	2.6
	2月	2.8	2.8	3.2	2.5
	3月	2.7	2.6	2.9	2.2
	4月	2.5	2.2	2.4	2.0
	5月	2.8	2.5	2.1	1.7
	6月	2.8	2.6	2.2	1.9
	7月	2.8	2.7	1.9	1.6
	8月	3.0	2.8	2.0	1.7
	9月	2.5	2.4	2.1	1.7
	10月	2.3	2.3	2.3	1.6
	11月	2.9	2.7	2.4	1.7
	12月	3.6	3.0	2.4	1.6
25年	1月	4.0	3.2	2.5	1.5
	2月	3.7	3.0	2.6	1.5

(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

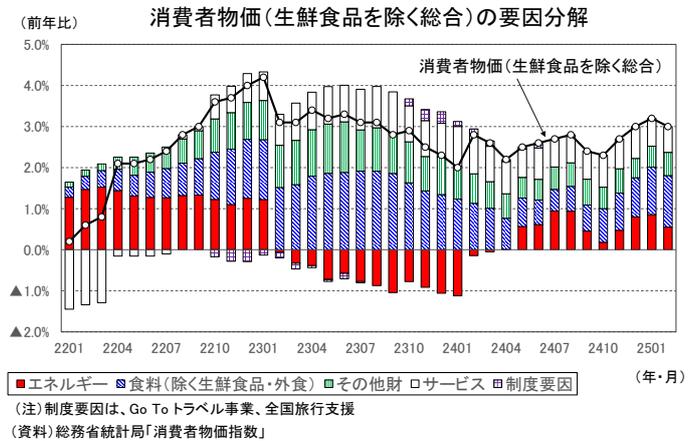
コア CPI の内訳をみると、灯油（1月：前年比6.3%→2月：同9.3%）、ガソリン（1月：前年比3.9%→2月：同5.8%）は上昇率が高まったが、電気・都市ガス代の支援策再開により、電気代（1月：前年比18.0%→2月：同9.0%）、ガス代（1月：前年比6.8%→2月：同3.4%）の上昇率が縮小したため、エネルギー価格の上昇率は1月の前年比10.8%からの同6.9%へ縮小した。

食料（生鮮食品を除く）は前年比5.6%（1月：同5.1%）と上昇率が前月から0.5ポイント拡大した。食料（生鮮食品を除く）は24年7月の前年比2.6%を底に7ヵ月連続で上昇率が高まった。米類の伸びがさらに高まった（12月：前年比64.5%→1月：同70.9%→2月：同80.9%）ことに加え、既往の円安に伴う輸入物価の上昇が消費者物価に波及している。

内訳をみると、米類のほかに、チョコレート（同30.4%）、調理パスタ（同12.5%）、果実ジュース（同18.4%）などが前年比で二桁の高い伸びを続ける一方、前年の上昇率が高かった裏が出ることで、カップ麺（同▲3.2%）、調理カレー（同▲2.4%）、紅茶（同▲3.2%）など下落する品目もあり、食料の価格にはばらつきが見られる。

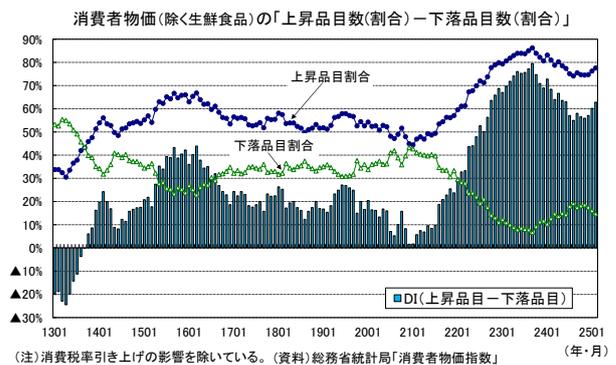
サービスは前年比 1.3%（1月：同 1.4%）と上昇率は前月から 0.1 ポイント縮小した。外食（1月：前年比 3.1%→2月：同 3.2%）、テーマパーク入場料（1月：前年比 3.1%→2月：同 4.5%）は上昇率が拡大したが、宿泊料（1月：前年比 6.8%→2月：同 5.2%）の伸びが鈍化し、外国パック旅行費が前年比▲2.8%（1月：同 1.9%）とコロナ禍の 20 年 12 月以来、4 年 2 ヶ月ぶりに下落に転じた。

コア CPI 上昇率を寄与度分解すると、エネルギーが 0.55%（1月：0.86%）、食料（除く生鮮食品・外食）が 1.26%（1月：1.16%）、その他財が 0.57%（1月：0.51%）、サービスが 0.63%（1月：0.68%）であった。



## 2. 物価上昇品目数が 3 ヶ月連続で増加

消費者物価指数の調査対象 522 品目（生鮮食品を除く）を前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、2 月の上昇品目数は 405 品目（1 月は 398 品目）、下落品目数 77 品目（1 月は 84 品目）となり、上昇品目数が 3 ヶ月連続で前月から増加した。上昇品目数の割合は 77.6%（1 月は 76.2%）、下落品目数の割合は 14.8%（1 月は 16.1%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は 62.8%（1 月は 60.2%）であった。



## 3. コア CPI 上昇率は当面 3%前後で高止まり

コア CPI 上昇率は 2 ヶ月連続で 3%台となった。食料（生鮮食品を除く）は 23 年 8 月の前年比 9.2%をピークに 24 年 7 月には同 2.6%まで鈍化したが、その後は輸入物価の再上昇に米価格の高騰が加わったことから再び上昇率が高まり、25 年 1 月は同 5.6%となった。食料品値上げの動きはしばらく続く可能性が高いが、川上段階（輸入物価、国内企業物価）の食料品価格の上昇率は 23 年夏頃に比べれば低水準にとどまっている。現時点では、消費者物価の食料品価格の上昇率は 6%台まで高まった後、頭打ちになると予想している。

一方、電気・都市ガス代の支援策は 25 年 3 月使用分（CPI への反映は 4 月）で終了（3 月は値引き額が縮小）することから、エネルギー価格の上昇率は高止まりすることが見込まれる。コア CPI 上昇率は、25 年度入りには高校授業料の無償化によって押し下げられるものの、当面 3%前後で高止まりすることが予想される。

本資料記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と完全性を保証するものではありません。また、本資料は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。